

熊本地震 四八一ヶ寺が被災

お見舞い復興支援の報告

平成二十八年四月十四日から発生しました「熊本地震」では、わたしたち浄土真宗本願寺派のお寺だけでも、熊本教区（三二二ヶ寺）、佐賀教区（八二ヶ寺）、大分教区（三八ヶ寺）、福岡教区（三〇ヶ寺）、長崎教区（六ヶ寺）、宮崎教区（三ヶ寺）、合計四八一ヶ寺のお寺が被害を受けました。

特に熊本県内では、本堂全壊、庫裏・門徒会館・納骨堂・山門・鐘楼の全壊や半壊の被害が集中しています。門徒の方々も住居をうしない、避難生活をされている方も多く、復興どころか被災した建物の残骸の片付けさえできない状態にあります。正定寺門徒会としましては、「お見舞いと復興支援活動」をとおして、少しでも被災寺院と被災者の方々の心のささえになればと考え、活動を開始しました。今後も、被災地と連絡をとりあいながら、復興支援の人の輪をひろげていきます。

平成二十八年六月～七月

■第一回 被災地お見舞い

六月二十三日（木）八時出発～十八時半帰着
 正定寺門徒会は、熊本地震で甚大な被害をうけた熊本教区益城町にお見舞いに行きました。
 参加者 住職、副住職、門徒会長・副会長

総代・仏婦会長・仏婦幹事 十二名

目的地 専寿寺様（全壊）光宗寺様（半壊）

目的 一、熊本教区益北組災害対策本部へ

義援金をお見舞いした

二、被災地視察

- 三、今後の復興支援を考える現地学習
- 四、みずからの防災対策の学習
- 五、支援物資・ジューズ十六箱
 （都城飲食業組合より委託）

お寺も市民の住宅も倒壊して、道路も橋も、はげしくこわれている様を見て、被災者の方々の今後の復興が困難であることを目の当たりにしました。今後継続的に復興支援活動を門徒会組織として取り組むこと、現地往復の車両燃料費とボランティア保険（一人六五〇円）は門徒会から支給することを確認しました。高速道路往復料金は、事前に都城市社協に申請すると、無料になることもわかりました。

■正定寺第一次支援活動

七月七日（木）六時半出発～十八時半帰着

参加者 副住職・総代・門徒 計四名

機材 ダンプカー一台（総代提供）

作業 作業工具・手洗い水・弁当・飲料

熊本教区益北組専寿寺様の本堂（全壊）

の廃材の片付け。

畳・材木・瓦・サッシ類の分別と最終

処分場への運搬

■ 毎回、福岡県や熊本県内からかけつけた僧侶

や門徒の皆さんと一緒に働きました。

■正定寺第二次支援活動（都城組有志も合流）

七月十四日（木）六時半出発～十八時半帰着

参加者 安楽寺住職・安楽寺門徒・善性寺若院

正定寺副住職・正定寺門徒 計七名

機材 ダンプカー一台（建築会社・大建提供）

手洗い水・弁当・飲料

作業 熊本教区益北組専寿寺様の鐘楼（全壊）

の廃材の片付け

鐘つき堂の解体・廃材を処分場へ運搬

■正定寺第三次支援活動

七月二十七日（水）六時半出発～十八時半帰着

参加者 副住職・総代・門徒 計三名

機材 ダンプカー一台（総代提供）

発電機・削岩機・ハンマー・ボール

延長コード・手洗い水・弁当・飲料

作業 熊本教区益北組専寿寺様の山門（全壊）

の廃材片付け・門柱の解体・門柱解体

コンクリート等の廃材を処分場へ運搬

ダンプカーなど作業機材については、正定寺門徒有志よりご協力をいただき、運搬車両にかかる燃料等の経費については正定寺門徒会から実費を支給しました。報告記事 副住職

■第二回 被災地お見舞い

平成二十九年二月六日（月）朝七時半出発。

熊本県合志市嚴照寺様、益城町寿徳寺様・専寿寺様に、昨年四月に発生した熊本地震のお見舞いに行ってきました。（復興支援五回目）参加者は、住職・坊主・副住職・総代・婦人会（計二六名）。ダーナ募金で集まった見舞金のほかに、手作りの甘酒とお餅をもって行きました。

復興支援と学び

寿徳寺様は倒壊した本堂が手つかずのまま。専寿寺様は、全施設を解体撤去してさら地になり、プレハブの仮本堂が建っていました。

復興はまだまだこれからです。私たち正定寺門徒会の「復興支援活動」は、被災地への応援をつづけながら、自分たちも学ぶご縁だと思っています。宮崎県にもいつかは大災害がやってきます。その時に備えて、私たちは怠らざる準備し学んでいかねばなりません。（2017/2/6 現在）